

平成 18 年 度

新潟県放射線監視センター年報

第 5 卷

平成 19 年 12 月

新潟県放射線監視センター

は じ め に

このほど平成18年度の新潟県放射線監視センターの業務概要及び調査研究成果をとりまとめセンター年報として第5巻を発刊しましたので、ご高覧いただければ幸甚であります。

当センターは、1 サイトでは世界最大の原子力発電所である東京電力株式会社柏崎刈羽原子力発電所周辺の環境放射線監視調査を主な業務としています。そのほかに核実験等のフォーアウト調査も実施しています。平成18年10月9日、北朝鮮は地下核実験を実施しました。今回の核実験は地下核実験ではありますが、県民の健康と安全・安心の観点から当センターでは24時間体制を組み、長岡等各地域の県環境センター及び保健環境科学研究所の協力を得て可搬型モニタリングポストでの線量率測定やダスト捕集などを含め全県的な調査を実施し、監視結果については県庁を通じ放射能の影響は認められないことを公表しました。この調査は他の都道府県の対応に比べても大規模な調査であり、県民の安心に寄与したものと考えています。また、本年7月16日に中越沖地震が発生しましたが、中越大震災及び北朝鮮核実験調査と同様に24時間体制でモニタリングの強化をし、正確なデータを迅速にお知らせしました。県民の安心・安全に寄与するという放射線監視業務の重要性を改めて認識した次第であります。

エネルギー資源の乏しい我が国においては、今後とも原子力発電は重要な位置を占めるものと思われませんが、国民の原子力に対する不信感、不安感は容易には払拭されないのが現状であります。こうした状況の中で私ども職員は地域住民の健康と安全・安心を守る立場で放射線の監視に取り組んでいるところであり、この役割は益々重要になるものと思われします。18年度の原子力防災訓練においても当センターは緊急時モニタリングの中心的な役割を担い、ブラインド方式等の新しい試みについても十分な成果を上げることができました。現在、発電所については安全性が十分確認されるまでは停止していますが、職員は常に緊張感を持った対応をしており、万一の災害に備え迅速な行動がとれるようにとの心構えで職務に当たっています。今後は団塊世代の大量退職に伴う知識、技術の継続のため人材育成に努めることが重要となってきますが、その一環として環境放射線に関する調査研究も実施しており、これらの成果は、職員のレベルアップに加え監視調査結果を適切に評価するためにも役立っています。

センター年報の内容について皆様の忌憚のないご意見をいただければ幸いです。今後とも皆様のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

平成19年12月

新潟県放射線監視センター所長

殿 内 重 政

目 次

I 業務報告編

1 運 営	3
1・1 沿 革	3
1・2 施設・設備の概要	3
1・3 組 織	6
1・4 予算・決算	7
1・5 主 要 備 品	7
1・6 行 事	8
1・7 外部委員会等への参画	10
2 業務概要	11
2・1 柏崎刈羽原子力発電所周辺環境放射線監視調査	11
2・2 環境放射能水準調査	12
2・3 原子力防災訓練	12
2・4 北朝鮮による核実験への対応	13
2・5 調査研究業務	13
2・6 その他の業務	15

II 研究報告編

1 研究報告	21
【研究報告】	
1) 環境中トリチウムレベル調査	21
春日 俊信・笠原 貢	
【技術報告】	
1) 新潟市における降水中トリチウムレベル調査	28
笠原 貢・春日 俊信・殿内 重政	
2) 北朝鮮核実験時の放射能影響調査	35
春日 俊信・坂上 央存・笠原 貢・藤巻 広司・霜鳥 達雄・	
加藤 健二・山崎 興樹・中山 久雄・殿内 重政	
3) 新環境放射線モニタリング車の概要	45
坂上 央存・藤巻 広司・加藤 健二・中山 久雄	
【技術資料】	
1) 安定ストロンチウム測定法の比較検討	54
笠原 貢	
2 学位論文概要	57
1) Studies on Measurements of Environmental Radioactivities Around a Nuclear Power Station	57
Hisanobu Sakaue	
3 他誌発表	73
4 学会等発表	74

III 資料編

新潟県放射線監視センター年報 研究報告編投稿規程	77
新潟県放射線監視センター年報 研究報告編執筆要領	78